

Point 132

515 Would you mind () me a letter of recommendation to an
□□□ American university?

- ① for writing ② to write ③ write ④ writing (同志社大)

516 We enjoyed () the wedding reception the other day.

□□□ ① attended ② attending ③ to attend ④ to have attended

(実践女子大)

517 Sue has given up () to lose weight.

□□□ ① to try ② try ③ tried ④ trying

(駒澤大)

518 Have you finished () on your project yet?

□□□ ① working ② worked ③ to work ④ to be working

(東邦大)

519 We are going to play baseball this afternoon if it stops ().

□□□ ① raining ② to raining ③ for raining ④ to rain

(東京家政大)

520 Have you ever considered () in sociology at college?

□□□ ① majoring ② to major ③ of majoring ④ on majoring (拓殖大)

521 Jimmy denied () my model plane, even though he was the
□□□ only person who was in my room at that time.

- ① to breaking ② to break ③ being broken ④ having broken

(関西学院大)

515 アメリカの大学への、私の推薦状を書いていただけませんか。

516 私たちは先日結婚披露宴に出席して楽しかった。

517 スーは減量することをあきらめた。

518 もうプロジェクトへの取り組みは終わったのですか。

519 もし雨がやめば、今日の午後、野球をすることになっています。

520 これまで、大学で社会学を専攻することを考えたことがありますか。

521 ジミーは、そのとき私の部屋にいたのが彼だけだったにもかかわらず、私の模型飛行機をこわしたことを否定した。

Point 132 不定詞を目的語にせず動名詞を目的語にとる動詞

他動詞の中には、動名詞は目的語にするが、不定詞は目的語にとらないものがある。入試では最頻出項目の1つ。【整理47】の動詞は正確に覚えておく必要がある。

515 **mind doing** 「…するのを気にする／いやがる」 基本

▶ **Would [Do] you mind doing?** 「…していただけませんか←…するのを気にしますか」は「依頼」を表す重要表現。

▶ **プラス Would [Do] you mind my [me] doing?** は「…してもいいですか←私が…するのを気にしますか」という相手の「許可」を求める表現となる。この **my [me]** は動名詞の意味上の主語(⇒136)。

▶ **プラス mind** を用いた疑問文への答え方は問題 637, 1289 参照。

516 **enjoy doing** 「…するのを楽しむ」 基本517 **give up doing** 「…するのをあきらめる／やめる」 基本518 **finish doing** 「…するのを終える」 基本

▶ **work on A = Aの改善に取り組む。**

519 **stop doing** 「…するのをやめる」 標準

▶ **!!注意** stop には **stop to do** 「…するために立ち止まる」の形もあるが、この場合の stop は「立ち止まる」の意味を表す自動詞であり、後に続く不定詞は目的「…するために」を表す用法。したがって、④ to rain は文意に合わないので不可。

520 **consider doing** 「…するのを考慮する」 標準

▶ 不定詞を目的語にせず動名詞を目的語にとる動詞として、consider は要注意。

521 **deny doing** 「…するのを否定する」 標準

▶ ここでは「…をこわしたことを否定した」という意味なので **denied having broken ...** の形になる。

整理 47 不定詞を目的語にせず動名詞を目的語にとる動詞

- **mind** 「…するのを気にする」(⇒515)
- **miss** 「…しそこなう」
- **enjoy** 「…するのを楽しむ」(⇒516)
- **give up** 「…するのをあきらめる」(⇒517)
- **admit** 「…するのを認める」
- **avoid** 「…するのを避ける」
- **finish** 「…するのを終える」(⇒518)
- **escape** 「…するのをのがれる」
- **practice** 「…する練習をする」
- **put off** 「…するのを延期する」
- **postpone** 「…するのを延期する」
- **stop** 「…するのをやめる」(⇒519)
- **consider** 「…するのを考慮する」(⇒520)
- **deny** 「…するのを否定する」(⇒521) など

Point 133

- 522 He could not () to send all his children to college.
□□□ ① allow ② permit ③ afford ④ approve (東海大)
- 523 If you decide () the proposal, please send it to me by the
□□□ end of May.
① submit ② submitting ③ to submit ④ to be submitted (広島工大)
- 524 Dave has not taken his driving test yet, but he expects ().
□□□ ① having taken it next week
② to take it next week
③ taking it next week
④ soon take the test (東海大)
- 525 What many people () to recognize is that, with friendship,
□□□ quality is more important than quantity.
① mind ② deny ③ put off ④ fail (立教大)
- 526 She left home and went to London, () to find love and
□□□ adventure.
① regarding ② supposing ③ hoping ④ dreaming (九州産大)
- 527 When I started talking about art, he offered () me his
□□□ collection.
① to show ② showing ③ showed ④ shows (福岡大)
- 528 Don't pretend () jazz. I know you really hate it.
□□□ ① liking ② liked ③ like ④ to like (獨協大)

522 彼には、子どもたち全員を大学に行かせる余裕はなかった。

523 企画案を提出することに決めたら、5月末までにそれを私宛に送ってください。

524 ティブはまだ運転免許の試験を受けていないが、来週には受けるつもりである。

525 友情について多くの人が認識を欠いているのは、量より質の方が重要であるということだ。

526 愛と冒険を見つけることを期待して、彼女は故郷を離れ、ロンドンに向かった。

527 私が芸術について話し始めると、彼は自分のコレクションを見せてもいいよと言った。

528 ジャズが好きならをしないでください。本当はジャズを嫌っているのはわかっています。

Point 133 動名詞を目的語にせず不定詞を目的語にとる動詞

他動詞の中には、Point 132 の動詞とは逆に、不定詞は目的語にとるが、動名詞は目的語にとらないものがある。

522 **afford to do** 「…する余裕がある」

標準

▶ 選択肢の中で不定詞を目的語にとるのは③ afford のみ。

▶ ① allow, ② permit は不可。allow[permit] A to do 「Aが…するのを許す」の形はあるが、allow[permit] to do の形はない。④ approve も不定詞をとる形はない。

＋プラス afford は can, could, be able to とともに用い、通例、否定文・疑問文で用いる。

523 **decide to do** 「…することに決める」

基本

524 **expect to do** 「…するつもりである」

標準

525 **fail to do** 「…することを怠る／しない」

標準

▶ 選択肢の中で不定詞を目的語にとるのは④ fail のみ。

▶ ① mind, ② deny, ③ put off はいずれも、不定詞ではなく動名詞を目的語にとる動詞(→p.191【整理47】)。

▶ 文の主語は What から recognize まで。この what は関係代名詞で、節内では recognize の目的語となっている(→Point 081)。

526 **hope to do** 「…することを望む」

標準

▶ hoping to find love and adventure は「付帯状況(…しながら／そして…する)」を表す分詞構文(→Point 055)。

527 **offer to do** 「…することを申し出る／…してもいいと言う」

標準

528 **pretend to do** 「…するふりをする」

標準

整理 48 動名詞を目的語にせず不定詞を目的語にとる動詞

基本的には未来志向の動詞が多い。

- **afford** 「…する余裕がある」(→522)
- **attempt** 「…しようと試みる」
- **decide** 「…することに決める」(→523)
- **expect** 「…するつもりである」(→524)
- **fail** 「…することを怠る／しない」(→525)
- **hope** 「…することを望む」(→526)
- **manage** 「どうにか…する」
- **offer** 「…することを申し出る」(→527)
- **pretend** 「…するふりをする」(→528)
- **refuse** 「…するのを断る」
- **promise** 「…する約束をする」
- **wish** 「…することを願う」 など

Point 134

529 私は10年前にこの小さな村を訪れたことを覚えています。

□□□ I remember () this small village ten years ago.

- ① to visit ② to be visiting ③ visited ④ visiting <成城大>

530 I must remember () a parcel to her tomorrow.

□□□ ① to send ② sending ③ having sent ④ to have sent <城西大>

531 Sue, please don't forget () this letter on your way to the station. It has to get to Brian by Saturday.

□□□ ① and to mail ② mail ③ mailing ④ to mail <千葉商大>

532 I'll never forget () Geneva when I was a student.

□□□ ① to have visited ② to visit ③ visited ④ visiting <京都産大>

533 He () borrowing the book from her.

□□□ ① regretted ② refused ③ asked ④ demanded <獨協大>

534 I tried () a letter in English by myself, but after an hour I gave up.

□□□ ① having written ② to have written
③ to write ④ to writing <センター試験>

535 He () to buy a house.

□□□ ① denies ② means ③ gives up ④ avoids <東京理大>

536 After playing with sand, your hands need ().

□□□ ① to wash ② to be washing ③ being washed ④ washing <日本大>

537 This letter needs () before it is sent.

□□□ ① be corrected ② corrected
③ to be corrected ④ to correct <同志社大>

530 明日、小包を彼女に送ることを忘れないようにしなければならない。

531 スー、駅に行く途中で忘れずにこの手紙を出してね。土曜日までにブライアンに届かなければならないから。

532 学生のときに、ジュネーブを訪れたことを決して忘れないでしょう。

533 彼は、彼女からその本を借りたことを後悔した。

534 独力で英語で手紙を書こうとしたが、1時間後、私はあきらめた。

Point 134 :: 目的語が不定詞と動名詞で意味が異なる動詞

他動詞の中には、不定詞も動名詞も目的語にとるが、それぞれ意味が異なるものがある。問題 529 ~ 532 などは文意から不定詞をとるか動名詞をとるかを判断する問題。なお意味と用法を p.197 の【整理49】にまとめているので最後に確認しよう。

- 529 **remember doing** 「(過去に)…したことを覚えている」 標準
- 530 **remember to do** 「…することを覚えておく」 標準
▶② sending は不可。未来を表す副詞 tomorrow があるので文意に合わない。
- 531 **forget to do** 「…することを忘れる」 標準
- 532 **forget doing** 「…したことを忘れる」 標準
▶主に否定文で用いられる。
- 533 **regret doing** 「…したことを後悔する」 標準
▶② refused は不可。refuse は不定詞を目的語にとる動詞(→p.193【整理48】)。
+プラス **regret to do** 「残念ながら…する」もここで押さえる。
- 534 **try to do** 「…しようとする」 標準
+プラス **try doing** 「試しに…してみる」も重要。
- 535 **mean to do** 「…するつもりである」= **intend to do** 標準
▶①の deny, ③の give up, ④の avoid は動名詞を目的語にとる動詞(→517, 521, p.191【整理47】)。
+プラス **mean doing** 「…することになる」も重要。
- 536 **need doing** 「…される必要がある」= **need to be done** 標準
▶need が動名詞を目的語にとる場合、受動的な意味になることに注意。
- 537 **need to be done** 「…される必要がある」= **need doing** 標準
+プラス 本問は This letter needs *correcting* before it is sent. と書きかえられる(→536)。

535 彼は家を買うつもりです。

536 砂遊びの後は、手を洗わなければいけません。

537 この手紙は、送る前に誤りを正す必要があります。

538 This computer () repairing.

- ① cares ② desires ③ hopes ④ wants

〈関西学院大〉

539 彼女は秘書を続けたくはなかった。

- She didn't (a / being / go / on / secretary / to / want).

〈立教大〉

540 私たちは新入生を歓迎し、さらに続けて校則を説明した。

- We welcomed the new students and then (school / the / explain / to / went / rules / on).

〈姫路獨協大〉

Point 135

541 Do you think I can () me to the station?

- ① have your brother to drive
② get your brother drive
③ have your brother driven
④ get your brother to drive

〈星葉大〉

542 I had the taxi driver () us to the nearest hospital right away.

- ① take ② taken ③ took ④ to take

〈立命館大〉

538 このコンピュータは修理が必要です。

541 あなたのお兄さん[弟さん]に、私を車で駅まで送ってもらえると思いますか。

542 私はタクシースの運転手に私たちをすぐに最寄りの病院に連れていってもらった。

538 **want doing** 「…される必要がある」= **need doing** [to be done]

標準

539 **go on doing** 「…し続ける」

標準

540 **go on to do** 「さらに続けて…する」

発展

整理 49 目的語が不定詞と動名詞で意味が異なる動詞

- ・ { **remember to do** 「…することを覚えておく」(→530)
- ・ { **remember doing** 「(過去に)…したことを覚えている」(→529)
- ・ { **forget to do** 「…することを忘れる」(→531)
- ・ { **forget doing** 「…したことを忘れる」(→532)
- ・ { **regret to do** 「残念ながら…する」
- ・ { **regret doing** 「…したことを後悔する」(→533)
- ・ { **mean to do** 「…するつもりである」(→535)
- ・ { **mean doing** 「…することになる」
- ・ { **need to do** 「…する必要がある」
- ・ { **need [want] doing** 「…される必要がある」(→536, 537, 538)
- ・ { **go on to do** 「さらに続けて…する」(→540)
- ・ { **go on doing** 「…し続ける」(→539)
- ・ { **try to do** 「…しようとする」(→534)
- ・ { **try doing** 「試しに…してみる」
- ・ { **stop to do** 「…するために立ち止まる」
- ・ { *この場合の **stop** は「立ち止まる」の意味の自動詞。
- ・ { **stop doing** 「…するのをやめる」(→519)

Point 135 :: get A to do / have A do, have [get] A done の用法

これらの用法が問われる問題では、目的語であるAと補語である [to do / do / done] が能動関係になっているか受動関係になっているかを文意から見抜くことが重要。能動関係なら get A to do / have A do に、受動関係なら get A done / have A done になる。またこの get と have の用法では、「人」を主語に用いる点も押さえておこう。

541 **get A to do** 「Aに…してもらう／させる」

標準

▶ your brother と drive は能動関係。

542 **have A do** 「Aに…してもらう／させる」

標準

▶ the taxi driver と take は能動関係。

▶ **have A do** は **get A to do** (→541) とほぼ同意。

538 ④ 539 want to go on being a secretary 540 went on to explain the school rules

541 ④ 542 ①

543 (a) The typhoon blew the roof off our house.

□□□ (b) We had the roof of our house () off by the typhoon.

〈法政大〉

544 “These documents have to be ready first thing tomorrow morning?”

□□□

“That’s right. Somehow we’ve got () today.”

① to get done them

② to get them done

③ to do away with them

④ to do them being got

〈上智大〉

Point 136

545 I want you () what time will be convenient for you.

□□□

① let me know

② let me to know

③ to let me know

④ to let me to know

〈東海大〉

546 The bad weather () us cancel the game.

□□□

① had ② made ③ caused ④ forced

〈摂南大〉

547 The American said he had seen nine presidents ().

□□□

① came and went

② come and go

③ were coming and going

④ had come and gone

〈青山学院大〉

548 ルーシーは、私たちが学園祭の準備をするのを手伝ってくれた。

□□□

Lucy (the / helped / school / us / prepare for / festival).

〈東京国際大〉

543 (a) 台風が私たちの家の屋根を吹き飛ばした。

(b) 私たちは台風で家の屋根を吹き飛ばされた。

544 「これらの書類は、明日の朝一番に用意されていなければならないのですね」

「そのとおり。なんとかして今日やってしまわなければならない」

545 あなたにとって何時が都合がよいのか、私に知らせてほしい。

546 悪天候のために私たちは試合を中止することにした。

547 そのアメリカ人は、9人の大統領が移り変わっていくのを見たと言った。

543 **have A done** 「Aを…される」=get A done 標準

▶ **have**[**get**] **A done** は「㊦Aを…してもらう/させる(使役), ㊧Aを…される(受身・被害), ㊨(自分が)Aを…してしまう(完了)」の3つの意味がある。本問は㊧の用法。

▶ **the roof** と **blow** は受動関係なので過去分詞の **blown** を入れる。

▶ (a)の英文の **blow A off B** は「AをBから吹き飛ばす」の意味を表す。

544 **get A done** 「(自分が)Aを…してしまう」=have A done 発展

▶ 本問の **get A done** は上記の㊨の用法。

+プラス **have got to do** は **have to do** と同意で「…しなければならない」の意味。

Point 136 ∴ 「S+V+O+do」の形をとる動詞

問題 542 の **have A do** もその1つであるが、動詞には目的格補語に原形不定詞(to のない不定詞)を用いて、「S+V+O+do」の形をとるものがある。

545 **let A do** 「Aに…させる/ (本人の望み通り)Aに…させてやる」 標準

▶ A と原形不定詞の間は能動関係であることに注意。

▶ **want** は **want A to do** 「Aが…することを望んでいる」の形をとる(⇒p.203【整理51】)。Aの後は不定詞。したがって㊠, ㊡の **let** の原形が続く形は不可。

▶ **let A know B** 「AにBを知らせる」はよく用いる表現。本問は **know** の目的語であるBが **what** から始まる疑問詞節となっている。

546 **make A do** 「Aに…させる」 標準

▶ ㊠ **had us** は不可。**have A do** は「人」を主語として用いる(⇒Point 135)。㊢ **caused**, ㊣ **forced** はそれぞれ **cause A to do**, **force A to do** の形をとる動詞(⇒p.203【整理51】)なので不可。

+プラス 本問は無生物主語であるが、**make A do** の主語が「人」の場合は「(強制的に)Aに…させる」の意味となる。

547 **see A do** 「Aが…するのを見る」 標準

▶ **see**, **watch**, **hear**, **feel**, **look at**, **listen to** といった感覚を表す動詞も「S+V+O+do」の形をとる(⇒p.201【整理50】右段)。

548 **help A do** 「Aが…するのを手伝う/Aが…するのに役立つ」 標準

▶ **help** も「S+V+O+do」の形をとる動詞。

!!注意 補語に原形不定詞だけでなく、不定詞をとることもあるので注意。**help A do = help A to do** と押さえる(⇒p.219【整理67】)。

549 子どもをいつも好きかってにさせておくのはよくない。

- It's not good to (children / have / let / own / their / way) all the time. 〈日本大〉

Point 137

550 He never () his personal problems to affect his performance.

- ① achieves ② allows ③ lets ④ makes 〈立教大〉

551 (a) Ships can avoid dangerous rocks thanks to lighthouses.

- (b) Lighthouses (e) ships to avoid dangerous rocks. 〈法政大〉

552 He () after his children while he was away on a business trip.

- ① was asked me to look ② asked me looked
③ asked to me for look ④ asked me to look 〈福岡大〉

553 My father () to be more patient in order to achieve something.

- ① hoped me ② advised me
③ suggested me ④ demanded me 〈福岡大〉

554 The shop clerk tried to () me to buy a more expensive computer.

- ① assert ② gain ③ persuade ④ talk 〈芝浦工大〉

555 What () you to change your mind?

- ① had ② let ③ caused ④ thought 〈関西学院大〉

556 The prize for the winner () people to take part in the contest.

- ① obstructs ② affects ③ encourages ④ decorates 〈関西外大〉

557 Bad weather () me to stay in London for three more days.

- ① made ② compelled ③ checked ④ prevented 〈防衛大学校〉

550 彼は、自分の個人的な問題が決して演技に影響しないようにしている。

551 (a) (b) 灯台のおかげで、船は危険な岩場を避けることができる。

552 彼は私に出張で不在の間、子どもたちの面倒を見るように頼んだ。

553 父は私に何かを成し遂げるためにはもっと我慢をするよう忠告した。

554 店員は私を説得してより高価なコンピュータを買わせようとした。

555 どうしてあなたは考えを変えたのですか。

556 優勝者に対する賞金が、人々にそのコンテストに参加しようとする意欲をかき立てている。

557 悪天候のために、私はさらに3日間、ロンドンに滞在しなければならなかった。

- 549 **let A do** 「(本人の望み通り)Aに…させてやる」 標準
 ▶ **let A do** (⇒545)と重要イデオム **have one's own way** 「自分の思い通りにする」(⇒1045)を用いて表現する。

整理 50

「S+V+O+do」の形をとる動詞

- **have A do** 「Aに…してもらう/させる」(⇒542)
- **let A do** 「Aに…させる/Aに…させてやる」(⇒545, 549)
- **make A do** 「Aに…させる」(⇒546)
- **help A (to) do** 「Aが…するのを手伝う/Aが…するのに役立つ」(⇒548)
- **hear A do** 「Aが…するのを聞く」
- **feel A do** 「Aが…するのを感じる」
- **look at A do** 「Aが…するのを見る」
- **listen to A do** 「Aが…するのを聞く」
- **see A do** 「Aが…するのを見る」(⇒547)
- **watch A do** 「Aが…するのを見守る」

* **help** の場合、目的格補語に原形不定詞のみならず、**to** 不定詞もとる。

Point 137 : 「S+V+O+to do」の形をとる動詞

「S+V+O+to do」の形をとる動詞の用法を問う問題では、選択肢の中からこの用法の動詞を選ばせる問題が多い。正答として p.203 の【整理51】にまとめた動詞が設定され、誤りの選択肢に p.202 の【整理52】や上記の【整理50】の動詞が含まれることが多い。その用法を確実にしておくこと。

- 550 **allow A to do** 「Aが…するのを許す」 標準
 ▶③の **let**, ④の **make** は「S+V+O+do」の形をとる動詞(⇒545, 546)。
- 551 **enable A to do** 「Aが…するのを可能にする」 標準
- 552 **ask A to do** 「Aが…するように頼む」 基本
- 553 **advise A to do** 「Aに…するように忠告する」 基本
 ▶①の **hoped**, ③の **suggested**, ④の **demanded** は「S+V+O+to do」の形をとらない典型的な動詞(⇒p.202【整理52】)。
- 554 **persuade A to do** 「Aを説得して…させる」 標準
- 555 **cause A to do** 「Aが…する原因となる」 標準
 +プラス **What caused A to do ...?** は「なぜAは…したのか。←Aが…した原因は何か」(Why did A do ...?)の意味を表す。同意表現の **What made A do ...?** も頻出。
- 556 **encourage A to do** 「Aが…するように励ます」 標準
- 557 **compel A to do** 「Aに…することを強制する」 標準

558 Because he came down with the flu, (forced / he / stay at home / to / was) for a week. (センター試験)

Point 138

559 I would suggest () visit that castle.
□□□ ① that they ② them to ③ them ④ for them to (拓殖大)

560 He proposed that another meeting () next week.
□□□ ① was held ② be held ③ will be held ④ may be held (慶應義塾大)

561 I highly recommended () regularly to stay fit.
□□□ ① her to taking walks ② she take walks ③ that she may take walks ④ for her taking walks (上智大)

Point 139

562 It feels much () today than yesterday.
□□□ ① warmer ② more warmly ③ more warmer ④ warming (上智大)

563 His wish has () true.
□□□ ① become ② come ③ got ④ realized (学習院大)

整理 52 [S+V+O+to do]のパターンをとれない注意すべき動詞

以下の動詞は英作文などで「S+V+O+to do」の用法で使いがちな動詞。語法問題でも、誤りの選択肢として頻出なのでしっかり押さえておこう。

◆ 英作

- | | | |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| • admit 「認める」 | • forgive 「許す」 | • propose 「提案する」 |
| • demand 「要求する」 | • hope 「希望する」 | • suggest 「提案する」 |
| • excuse 「許す」 | • inform 「知らせる」 | |
| • explain 「説明する」 | • prohibit 「禁ずる」 | |

558 彼はインフルエンザにかかってしまったので、1週間家にいることを余儀なくされた。

559 彼らにあの城を訪問するよう提案しようと思うのですが。

560 彼は、来週もう一度会議を開きましようとして提案した。

561 健康維持のために定期的に歩くことを、私は彼女に強く勧めた。

562 今日は昨日よりもずっと暖かく感じられる。

563 彼の願いは実現した。

558 **force A to do** 「Aに…することを強制する」= **compel A to do** **標準**

▶ come down with A=A(病気)にかかる。

整理 51 入試で狙われる「S+V+O+to do」の形をとる動詞

- **advise A to do** 「Aに…するように忠告する」(⇒553)
- **allow A to do** 「Aが…するのを許す」(⇒550)
- **ask A to do** 「Aが…するように頼む」(⇒552)
- **cause A to do** 「Aが…する原因となる」(⇒555)
- **enable A to do** 「Aが…するのを可能にする」(⇒551)
- **encourage A to do** 「Aが…するように励ます」(⇒556)
- **expect A to do** 「Aが…すると予期する」
- **force[compel] A to do** 「Aに…することを強制する」(⇒557, 558)
- **invite A to do** 「Aに…するように勧める」
- **oblige A to do** 「強制的にAに…させる」
- **permit A to do** 「Aが…するのを許す」
- **persuade A to do** 「Aを説得して…させる」(⇒554)
- **remind A to do** 「Aに…することを気づかせる」(⇒600)
- **require A to do** 「Aに…するように要求する」
- **want A to do** 「Aに…してほしいと思っている」

Point 138 ∴ 「that S (should)+原形」の形を目的語にとる動詞

suggest 「提案する」, demand 「要求する」, insist 「主張する」, order 「命令する」, require 「要求する」, request 「懇願する」, propose 「提案する」, recommend 「勧める」といった要求・提案・命令などを表す動詞の目的語となる that 節中では、「should+原形」または「原形」を用いる。

!! 注意 この形は、述語動詞の時制に左右されない点に注意すること。

559 **suggest that S (should)+原形** 「Sが…することを提案する」 **標準**

▶ ② them to にしないこと。suggest A to do の形はない(⇒左頁の【整理52】)。

560 **propose that S (should)+原形** 「Sが…することを提案する」 **標準**

561 **recommend that S (should)+原形** 「Sが…することを勧める」 **標準**

▶ 本問は that が省略された形。

Point 139 ∴ 「S+V+C」の形をとる動詞

自動詞の中には補語に形容詞をとる動詞がある。代表的なものに、feel 「…と感じられる／…の感じを覚える」, look 「…に見える」, seem 「…のように思われる／見える」, sound 「…に聞こえる」, go 「…になる」, turn 「…になる」, lie 「…の状態にある」, remain 「…のままである」, get 「…の状態になる」, taste 「…な味がする」, 慣用的な come true 「実現する」などがある。

562 **feel**+形容詞 「…と感じられる／…の感じを覚える」 **標準**

▶ warm の比較級は warmer なので③ more warmer は不可。② more warmly は副詞。

563 **come true** 「実現する」 **基本**

▶ **come true** は成句表現として押さえる。become true という表現はない。

564 A man is in danger of () wrong when he is made much of.

- ① taking ② going ③ having ④ growing <北海学園大>

565 ファンは、応援しているチームが最終回に得点したら大騒ぎをした。

- The fans (when / went / scored / their / in / team / wild / the / final) inning. <関西外大>

Point 140

566 Do you think he () his father?

- ① resembles ② resembles after
③ resembles to ④ resembles with <同志社大>

567 The plane was () London in dense fog.

- ① approaching ② approaching to
③ approaching toward ④ approaching at <武庫川女子大>

568 The class () the problem.

- ① discussed ② discussed on
③ discussed about ④ discussed with <東京経大>

569 ① Although Mary and I are ② from different backgrounds, I ③ have

- decided to marry ④ with her. <中京大>

570 “Is Sarah still single?”

- “No. She’s married () a doctor.”
① by ② to ③ for ④ with <桃山学院大>

571 Mary ① apologized the teacher ② for ③ coming ④ to school late.

- <流通経大>

572 Mr. and Mrs. Hudson are always () with each other about money.

- ① annoying ② arguing ③ discussing ④ shouting <東海大>

564 人は、もてはやされるとうまくいかない危険性がある。

566 彼はお父さんに似ていると思いますか。

567 その飛行機は濃霧の中をロンドンに近づいていた。

568 そのクラスはその問題を討議した。

569 メアリーと私は異なった生い立ちであるが、私は彼女と結婚することに決めた。

570 「サラはまだ独身ですか」

「いいえ。彼女は医者と結婚しています」

571 メアリーは、学校に遅刻したことを先生に謝った。

572 ハドソン夫妻は、お金のことでいつも言い争いをしている。

564 go+形容詞「…になる」

標準

- ▶ go は、特定の形容詞をとると become の意味になるが、補語となる形容詞は、**bad, mad, wrong, wild, blind, flat**「パンクした／空気が抜けた」などのように通例好ましくない状態を表すものが来ることに注意。
- ▶ 本問の **go wrong** は「うまくいかない」の意味。
- ▶ ④ growing は不可。grow old「年をとる」のように grow も補語に形容詞をとるが grow wrong とは言わない。

565 go wild「荒っぽくなる／興奮する」(→564)

標準

Point 140 自動詞と間違えやすい他動詞, 他動詞と間違えやすい自動詞

566 resemble A「Aに似ている」=look like A

標準

567 approach A「Aに近づく」

標準

568 discuss A「Aについて議論する」=talk about A

基本

569 marry A「Aと結婚する」

標準

- ▶ **プラス** marry A は **get married to A** と表現することもできる。「Aと結婚している」という状態を表す場合は、**be married to A** を用いる。

570 be married to A「Aと結婚している」(→569)

標準

571 apologize to A for B「AにBのことで謝る」

標準

572 argue with A about B「BについてAと口論する」

標準

- ▶ ①の annoy は他動詞なので with が不要となる。

整理 53 自動詞と間違えやすい注意すべき他動詞

- answer A「Aに答える」
- approach A「Aに近づく」(→567)
- attend A「Aに出席する」
- discuss A「Aについて議論する」(→568)
- enter A「Aの中に入る」
- marry A「Aと結婚する」(→569)
- mention A「Aについて言及する」
- obey A「Aに従う」
- reach A「Aに着く」
- resemble A「Aに似ている」(→566) など

整理 54 他動詞と間違えやすい注意すべき自動詞

- apologize (to A) for B「(Aに)Bのことで謝る」(→571)
- argue with A (about B)「(Bについて)Aと口論する」(→572)
- complain (to A) of/about B「(Aに)Bについて文句を言う」
- graduate from A「Aを卒業する」

564 ② 565 went wild when their team scored in the final 566 ① 567 ① 568 ①

569 ④ with her → her 570 ② 571 ① apologized the teacher → apologized to the teacher 572 ②

Point 141

573 適度な運動をすることは体によい。

□□□ (exercise / good / moderate / you / does). 〈朝日大〉

574 Whatever you try, it will not () to your record.

□□□ ① hurt ② break up ③ destroy ④ do harm 〈武庫川女子大〉

575 (a) May I ask a favor of you?

□□□ (b) Will you () me a favor? 〈名古屋女子大〉

Point 142

576 (a) May I have a moment of your time?

□□□ (b) Can you () me a little of your time? 〈立教大〉

577 ナンシーからの電子メールが、私が彼女に電話をしなくてはならない手間を省いてくれた。

□□□ An email from Nancy (calling / of / saved / me / the trouble) her. 〈近畿大〉

578 家のペンキを塗りかえてもらうのにずいぶん費用がかかりました。

□□□ It (money / cost / a lot of / me / house / repainted / my / have / to). 〈京都学園大〉

579 旅行の手配をするのにずいぶん時間がかかった。

□□□ It (a / arrange / long / me / time / to / took) a tour. 〈東北学院大〉

574 あなたが何に挑戦しようとも、あなたの経歴に傷はつかないでしょう。

575 (a) (b) お願いがあるのですが。

576 (a) (b) 少々お時間を割いていただけますか。

Point 141 二重目的語をとる do の用法

do には特定の目的語Bを伴って do A B の二重目的語をとる用法がある。

573 do A good 「Aのためになる」=do good to A

標準

574 do A harm 「Aの害になる」=do harm to A

標準

▶① hurt は不可。hurt は他動詞なので to が不要。

575 do A a favor 「Aの頼みを聞き入れる」

標準

▶May I ask a favor of you? 「お願いがあるのですが」は重要表現(→1295)。

整理 55

二重目的語をとる do の慣用的表現

- do A good 「Aのためになる」=do good to A (good は名詞で「利益」)(→573)
- do A harm 「Aの害になる」=do harm to A (harm は名詞で「害」)(→574)
- do A damage 「Aに損害を与える」=do damage to A
- do A a favor 「Aの頼みを聞き入れる」(→575)

*上記の左側の表現では、文脈から明らかな場合はAが省略されることもある。

Point 142 その他の二重目的語をとる注意すべき動詞

最後に p.208 の【整理56】の動詞を確認しよう。

576 spare A B 「AにBを割く/AのBを省く」

標準

577 save A B 「AのBを省く」

標準

▶本間は save A B のBに the trouble of doing 「…する手間」を用いる。
save [spare] A the trouble of doing 「Aが…する手間を省く」で押さえる。

578 cost A B 「AにB(費用)がかかる/AにB(犠牲など)を払わせる」

標準

▶cost A B 「AにB(費用)がかかる」を用いた表現の It costs A+お金+to do 「Aが…するのに(お金が)~かかる」で英文の骨格を作る。to do の部分に have A done 「Aを…してもらう」(→543)を用いる。

+プラス cost A B のBに「金額・費用」ではなく、time, life, health などが来る場合は「AにB(犠牲など)を払わせる」の意味になる。

One mistake can cost you your life.

(ひとつのミスでも命を落とすこともあるよ)

579 take A B 「Aが(…するのに)Bを必要とする」

標準

▶take A B を用いた表現の It takes A+時間+to do 「Aが…するのに(時間が)~かかる」で英文を完成させる。

573 Moderate exercise does you good 574 ④ 575 do 576 spare 577 saved me the trouble of calling 578 cost me a lot of money to have my house repainted 579 took me a long time to arrange

580 They () me 5,000 yen for repairing my bicycle.

- ① priced ② cost ③ spent ④ charged (名古屋大)

581 The teacher () us only ten minutes to answer the questions.

- ① allowed ② got ③ charged ④ shared (立命館大)

582 Any delay in delivering the goods will () us a lot of trouble.

- ① cause ② produce ③ result ④ lead (近畿大)

Point 143

583 Swimsuits () best in summer.

- ① break ② decrease ③ come ④ sell (関西学院大)

584 Any dictionary will () as long as it is an English dictionary.

- ① do ② come ③ go ④ use (明治大)

Point 144

585 We are afraid that the sales tax will be () next year.

- ① rise ② risen ③ raise ④ raised (東海大)

586 After the typhoon, the water in the lake () three more feet.

- ① raised ② risen ③ rose ④ had raised (拓殖大)

587 Educational expenses ① have raised so rapidly ② in the past few years that many families ③ have been forced ④ to change their lifestyle. (日本女子大)

整理 56

二重目的語をとる注意すべき動詞

- **cost** A B 「AにB(費用)がかかる/AにB(犠牲など)を払わせる」(⇒578)
- **save** A B 「AのBを省く」(⇒577)
- **spare** A B 「AにBを割く/AのBを省く」(⇒576)
- **allow** A B 「AにBを割り当てる」(⇒581)
- **deny** A B 「AにBを与えない」
- **wish** A B 「AにBを祈る」
- **leave** A B 「AにBを残して死ぬ/残す」
- **cause** A B 「AにBをもたらす」(⇒582)
- **charge** A B 「AにBを請求する」(⇒580)
- **owe** A B 「AにBを借りている/負っている」
- **lend** A B 「AにBを貸す」
- **loan** A B 「(利子をとって)AにBを貸す」
- **take** A B 「Aが(…するのに)Bを必要とする」(⇒579)
- **offer** A B 「AにBを提供する」

580 彼らは、私の自転車の修理に5,000円を請求した。

581 先生は、その問題に答えるのに私たちにたった10分しか与えなかった。

580 **charge** A B 「AにBを請求する」 発展581 **allow** A B 「AにBを割り当てる」 発展582 **cause** A B 「AにBをもたらす／与える」 標準

▶左頁の【整理56】で意味と用法を整理しておこう。

Point 143 ； 思いがけない意味を表す自動詞

自動詞で用いられると思いがけない意味になる do, pay, sell, read, last が代表的なもの。

583 **sell** 「売れる」 標準584 **do** 「間に合う／十分である」 標準

整理 57 自動詞 do / pay / sell / read / last の用法

- (1) **do** は自動詞で用いられると「間に合う／十分である」の意味になる。(→584)
- (2) **pay** は自動詞で用いられると「利益になる／割に合う」の意味になる。
Honesty sometimes does not *pay*.
(正直は時として割に合わないことがある)
- (3) **sell** は自動詞で用いられると「売れる」の意味になる。(→583)
- (4) **read** は自動詞で用いられると「解釈される／読める」の意味になる。
This rule *reads* several ways. (この規則はいく通りにも解釈できる)
- (5) 自動詞 **last** は期間を表す副詞を伴って「(物・事)がある期間続く／(物が)ある期間長持ちする」の意味を表す。
The storm *lasted* (for) three days. (嵐は3日間続いた)

Point 144 ； 自動詞と他動詞で活用と意味が紛らわしい動詞

585 **raise** は他動詞。**raise** A で「Aを上げる」の意味を表す。 基本

▶① rise は自動詞で「上がる」の意味なので不可。

586 自動詞 **rise** の過去形は **rose** 基本587 自動詞 **rise** の過去分詞は **risen** 標準

582 荷物の遅配はどのような遅れでも、私たちに多大な迷惑をおよぼす。

583 水着は夏に最も売れる。

584 英語の辞書であれば、どんな辞書でもかまいません。

585 私たちは来年売上税が上がるのではないかと心配している。

586 台風の後、湖の水位はさらに3フィート上がった。

587 教育関係の支出が過去数年間で急速に増えているので、多くの家庭が生活の仕方を変えざるを得なくなっている。

580 ④ 581 ① 582 ① 583 ④ 584 ① 585 ④ 586 ③ 587 ① have raised → have risen

588 The dictionary () on the bookshelf.

□□□

① was lying

② was lain

③ was laying

④ was lied

〈四天王寺大〉

589 During this period the foundation was () for many Japanese traditions.

□□□

① laid

② lain

③ lay

④ lied

〈千葉商大〉

Point 145

590 We () air pollution.

□□□

① argued with

② discussed about

③ spoke to

④ talked about

〈関西学院大〉

591 I would not () anything if I were you.

□□□

① tell

② talk

③ say

④ speak

〈大阪経大〉

592 Ellen told ().

□□□

① about that she lost her purse

② me that she had lost her purse

③ to me that she lost her purse

④ to me having lost her purse

〈大東文化大〉

593 I () to him that he would have to wait a little longer for the bus.

□□□

① explained

② informed

③ told

④ convinced

〈大東文化大〉

588 その辞書は本棚にありました。

589 この時期に多くの日本の伝統の基礎が築かれた。

590 私たちは大気汚染について話をした。

591 もし私があなたならば、何も言わないでしょう。

592 エレンは私に、財布をなくしたと言った。

593 私は彼に、バスが来るまでもう少し待たなければならぬと説明した。

588 自動詞 **lie** 「横たわる／ある」の現在分詞は **lying** 基本
 ▶③ was laying は他動詞 lay 「…を横たえる／置く」の進行形なので不可。

589 他動詞 **lay** の過去分詞は **laid** 標準
 ▶他動詞 lay は「(基礎など)を築く」の意味も表すが、本問はその受動態。

整理 58

自動詞 rise と他動詞 raise の活用

	(原形)		(過去形)		(過去分詞形)		(現在分詞形)
(自動詞)	rise	—	rose	—	risen	—	rising
(他動詞)	raise	—	raised	—	raised	—	raising

整理 59

自動詞 lie と他動詞 lay の活用

	(原形)		(過去形)		(過去分詞形)		(現在分詞形)
(自動詞)	lie	—	lay	—	lain	—	lying
(他動詞)	lay	—	laid	—	laid	—	laying

*自動詞 **lie** は「うそをつく」(=tell a lie)の意味を表す用法がある。活用は規則的で **lie—lied—lied—lying** になる。

Point 145 :: tell / say / speak / talk と explain の用法

tell / say / speak / talk の用法、および explain の用法は紛らわしく、入試最頻出項目のひとつ。p.213 の【整理60】でその用法をしっかりと区別しておこう。

590 **talk about A** 「Aについて話す」= **discuss A** 基本
 ▶①の argue with A 「Aと口論する」のAには「人」が来る(→572)。②の discuss は他動詞なので about が不要(→568)。③の speak to A 「Aと話をする／Aに話しかける」のAには「人」が来る。

591 **say A** 「Aを言う」— **say** は基本的に他動詞 基本
 !!注意 say の目的語であるAには「人」が来ない点に注意。

592 **tell A that** 節 「Aに…だと言う」 標準
 ▶**tell** は二重目的語をとり、**tell A B** 「AにBを言う／知らせる」の意味を表す。本問はBが that 節になった形。

593 **explain A to B / explain to B A** 「AのことをBに説明する」 標準
 ▶**explain** は他動詞であるが、**tell** と違って二重目的語をとる用法はない。
 ▶本問は目的語Aが that 節で長いので、**explain to B A** の形になっている。
 ▶③ told は不可。tell の形は **tell A that** 節(→592)。② informed, ④ convinced も不可。tell の形と同様に、**inform A that** 節 「Aに…と知らせる」、**convince A that** 節 「Aに…を確信させる」の形をとる。

594 I heard somebody () my mother about the accident, and I
 noticed that the news upset her.

- ① say ② speaking ③ talking ④ tell 〈関東学院大〉

595 私は水泳教室で浮き方を子どもたちに教えています，ベッドで寝
 ている姿をイメージしなさいと言っています。

In swimming class, I teach kids how to (by / float / imagine /
 telling / them / to) they're lying on a bed. 〈立教大〉

596 The catalog () that this year's model is slightly cheaper
 than last year's.

- ① says ② speaks ③ talks ④ tells 〈センター試験〉

597 私は彼女に会議へ出席するように説得しようとした。

I tried (attending / her / into / meeting / talk / the / to). 〈立教大〉

Point 146

598 When Henry is angry, the expression on his face () me of
 his grandfather.

- ① recalls ② recollects ③ remembers ④ reminds 〈京都産大〉

599 どうかあのいやな日を思い出させないでください。(1語不要)

Don't (awful / day / me / of / remember / remind / that).

〈学習院大〉

594 誰かが母にその事故について話をするのを耳にしたが、その知らせが母を動揺させたのがわかった。

596 カタログには、今年のモデルは昨年のモデルよりも多少は安いと書いてある。

598 ヘンリーが怒っているとき、その表情は私に彼のおじいさんを思い出させる。

- 594 **tell A about B** 「BについてAに話す」 標準
 ▶ 本英文の基本構造は **hear A do** 「Aが…するのを耳にする」の形(⇒547)。
 ▶ ① say は不可。say は目的語に「人」をとらない。
- 595 **tell A to do** 「Aに…するように言う／知らせる」 標準
 ▶ **by doing** 「…することによって」で「手段」を表すが、**doing** の箇所には **tell A to do** を用いる。
 +プラス 不定詞が否定になった **tell A not to do** 「Aに…しないように言う」も頻出。
- 596 **S say that** 節 「Sには…だと書いてある／Sによれば…」 発展
 ▶ 選択肢のうち say のみが直後に目的語として **that** 節をとる。
- 597 **talk A into doing** 「Aを説得して…させる」 発展
 ▶ **persuade A to do**(⇒554)が同意表現。

整理 60

tell / say / speak / talk の用法

- (1) **tell**—基本的には他動詞。**tell A B** / **tell A about B**(⇒594) / **tell A to do**(⇒595) / **tell A that** 節[**wh-** 節](⇒592)で使える点が大きな特徴。
- (2) **say**—基本的には他動詞(⇒591)。目的語に **that** 節, **wh-** 節などもとる。ただし、目的語に「人」をとらないことに注意。また、「新聞／手紙／天気予報」などを主語にして、**S say that** 節(⇒596)の形で、「Sには…だと書いてある／Sによれば…」の意味を表す用法はよく狙われる。
- (3) **speak**—基本的には自動詞で「話す／演説をする」の意味を表す。他動詞用法の場合は、通例、「言語／言葉／意見」を目的語にする。
- (4) **talk**—基本的には自動詞で「話す／しゃべる」の意味を表す。「Aと話し合う」は、**talk to**[**with**] **A** を用いる。**speak** と言いかえができる場合も多い。また他動詞用法の **talk A into doing** 「Aを説得して…させる」(⇒597), **talk A out of doing** 「Aを説得して…するのをやめさせる」はともに頻出。

Point 146 :: remind の用法と remind A of B 型の動詞

- 598 **remind A of B** 「AにBのことを思い出させる」 標準
 ▶ この of は「関連」の of で「…に関して」の意味を表す。この of を用いて、「S+V+A+of+B」の形をとる動詞は重要(⇒p.215[整理61])。
 ▶ ①の recall, ②の recollect, ③の remember は、通例「人」が主語で「…を思い出す」の意味を表す。本問ではどれも不可。
- 599 **remind A of B** 「AにBのことを思い出させる」 標準

600 Please remind () the letters.

□□□

① me to mail

② me of mailing

③ my mailing

④ of me mailing

〈聖学院大〉

601 君は住所の変更を郵便局に知らせましたか。

□□□

Have you (post office / of address / the / change / of / informed / your)?

〈桜美林大〉

Point 147

602 He deprived me () my political power.

□□□

① from ② of ③ to ④ with

〈拓殖大〉

603 The man robbed () on her way home from the office.

□□□

① her handbag

② her handbag of her

③ her from her handbag

④ her of her handbag

〈名古屋外大〉

Point 148

604 時間がなかったので、あなたに手紙を書けませんでした。

□□□

Lack (from / me / of / prevented / time / writing) to you. 〈日本大〉

605 Rain or wind never stopped me () going to school.

□□□

① with ② over ③ of ④ from

〈立正大〉

606 Jane was prohibited by her teacher () to the club at night.

□□□

① for going ② going ③ from going ④ go

〈福岡大〉

整理 63 「S+V+A+from doing」の形をとる動詞

- **prevent** [keep / stop / hinder] **A from doing** 「Aが…するのを妨げる」(⇒ 604, 605)
- **prohibit** **A from doing** 「Aが…するのを禁じる」(⇒ 606)
- **discourage** **A from doing** 「Aが…するのを思いとどまらせる」

600 私がこれらの手紙を投函することを気づかせてください。

602 彼は私から政治力を奪った。

603 その男は、彼女が職場から家に帰る途中、彼女からハンドバッグを奪った。

605 雨が降ろうと風が吹こうとそれらは私が通学するのを妨げなかった。

606 ジェーンは先生から夜間にクラブに行くことを禁止された。

600 **remind A to do** 「Aに…することを気づかせる」 標準

▶ remind には, remind A of B の他にも **remind A to do** 「Aに…することを気づかせる」の用法がある(→p.203【整理51】)。

!!注意 ② me of mailing は不可。この意味では remind A of doing の形は使えない。誤りの選択肢としてよく出てくるので注意。

+プラス **remind A that** 節 「Aに…ということを知らせる」の用法も押さえる。

601 **inform A of B** 「AにBのことを知らせる」 標準

▶ **inform A of B** のBに your change of address を作る。

整理 61 「S+V+A+of+B」の形をとる動詞—remind A of B型

- **remind A of B** 「AにBのことを思い出させる」(→598, 599)
- **inform A of B** 「AにBのことを知らせる」(→601)
- **convince A of B** 「AにBのことを確信させる」
- **persuade A of B** 「AにBのことを納得させる」
- **warn A of B** 「AにBのことを警告する」
- **suspect A of B** 「AにBの嫌疑をかける」

Point 147 ∴ deprive の用法と deprive A of B 型の動詞

602 **deprive A of B** 「AからBを奪う」 標準

▶ この of は「分離・はく奪」を表す。この of を用いて, 「S+V+A+of+B」の形をとる動詞は重要(→【整理62】)。AとBを逆にしないこと。

603 **rob A of B** 「AからBを奪う」 標準

!!注意 Aには通例, 「人」が来る。

+プラス 紛らわしい表現の **steal A** 「Aを盗む」はAに「人」ではなくて「物」が来る。

整理 62 「S+V+A+of+B」の形をとる動詞—deprive A of B型

- | | |
|-----------------------------------------|----------------------------------------|
| • deprive A of B 「AからBを奪う」(→602) | • cure A of B 「AからBを取り除いて治す」 |
| • rob A of B 「AからBを奪う」(→603) | • rid A of B 「AからBを取り除く」 |
| • clear A of B 「AからBを取り除く」 | • relieve A of B 「AからBを除いて楽にする」 |

Point 148 ∴ 「S+V+A+from doing」の形をとる動詞

左頁の【整理63】の表現を確認しておこう。

604 **prevent A from doing** 「Aが…するのを妨げる」 標準

605 **stop A from doing** 「Aが…するのを妨げる」 標準

606 **prohibit A from doing** 「Aが…するのを禁じる」 標準

600 ① 601 informed the post office of your change of address 602 ② 603 ④

604 of time prevented me from writing 605 ④ 606 ③

Point 149

- 607 The drive from England to Scotland provides the traveler ()
 many pleasant changes of scenery.
 ① for ② with ③ that ④ to (立正大)
- 608 (a) They provided the earthquake victims with blankets.
 (b) They provided blankets () the earthquake victims.
 (立教大)
- 609 Human beings () many physical features with monkeys.
 ① have ② share ③ possess ④ compare (関西外大)

Point 150

- 610 It's unwise to blame anyone () their mistakes before you
 know all the circumstances.
 ① for ② from ③ in ④ of (東京電機大)
- 611 The train driver has been accused () causing death and
 bodily injury through professional negligence.
 ① by ② for ③ in ④ of (中央大)
- 612 I can hardly thank you enough () your help.
 ① by ② for ③ over ④ with (関東学院大)
- 613 すぐにお返事をいただければ幸いです。
 (from / appreciate / we / hearing / would / you) soon. (関西外大)

整理 65 [S+V+A+for+B]の形をとる動詞—blame A for B型

- **blame A for B** 「AをBのことで非難する／BをAのせいにする」(⇒610)
- **punish A for B** 「AをBのことで罰する」
- **thank A for B** 「AにBのことで感謝する」
- **blame B on A** (⇒612)
- **criticize A for B** 「AをBのことで非難する」
- **praise A for B** 「AをBのことでほめる」

- 607 イングランドからスコットランドへのドライブでは、旅行者は多くの景観の変化を楽しむことができます。
- 608 (a) (b) 彼らは地震の被災者たちに毛布を与えた。
- 609 人類はサルと多くの身体的特徴を共有している。
- 610 すべての状況がわからないうちに、過ちをしたと人を責めるのは賢明なことではない。
- 611 電車の運転士は、業務上過失致死傷で告発されている。
- 612 あなたの援助には、感謝のしようがありません。

Point 149 : 「S+V+A+with+B」の形をとる動詞

607 **provide A with B** 「AにBを供給する」 標準

+プラス provide A with B の同意表現である provide B for A も頻出。provide の目的語によって前置詞が異なる点に注意。

608 **provide B for A** 「AにBを供給する」=provide A with B 標準609 **share A with B** 「AをBと分かちあう」 標準

▶④ compare も compare A with B 「AをBと比較する」の形があるが、文意に合わないので不可。

整理 64 「S+V+A+with+B」の形をとる動詞

- **provide A with B** 「AにBを供給する」(→607) = **provide B for A** (→608)
- **supply A with B** 「AにBを供給する」(→973)
- **serve A with B** 「AにBを供給する」
- **present A with B** 「AにBを贈る」(→971)
- **share A with B** 「AをBと分かちあう」(→609)

Point 150 : 「S+V+A+for+B」の形をとる動詞

左頁の【整理65】を押さえる。なお本項目では、間違えやすい表現にも注意すること。

610 **blame A for B** 「AをBで非難する／BをAのせいにする」 標準

+プラス blame A for B の同意表現の blame B on A も頻出。

611 **accuse A of B** 「AをBで非難する／AをBで告発する」 標準

!!注意 accuse は blame と似た意味を表すが、「A for B」ではなく「A of B」になる点に注意。

612 **thank A for B** 「AにBのことで感謝する」 標準

!!注意 thank A は目的語のAに「人」をとる。

+プラス thank A for B の同意表現として be thankful [obliged / grateful] to A for B も頻出。

613 **appreciate A** 「Aをありがたく思う」 標準

▶ **appreciate A** 「Aをありがたく思う」は、thank A が目的語のAに「人」をとるのに対して、目的語のAに「事・物」をとる。

▶ 本問は appreciate の目的語として hearing from you の動名詞句を作る。

607 ② 608 for 609 ② 610 ① 611 ④ 612 ②

613 We would appreciate hearing from you

Point 151

614 この電車で行けば1時間で東京へ行けます。

This train will (in / you / to / take / Tokyo) an hour. 〈東北工大〉

615 「どうして日本へ来たのですか」

「茶道を学ぶために来ました」

“What has (b) you to Japan?”

“I have come to study the tea ceremony.” 〈立命館大〉

616 メアリーがドイツ語を話せるのは、努力のたまものだ。

Mary () her ability to speak German to hard work.

① thanks ② gives ③ contributes ④ owes 〈明治大〉

Point 152

617 I asked her to help ().

① my homework ② me the homework
③ me with my homework ④ the homework of me 〈桜美林大〉

618 There was a call for volunteers to () find homes for the newcomers to the town.

① assist ② continue ③ help ④ make 〈立教大〉

Point 153

619 “How do I look in this white dress?”

“It () you very well. You look more beautiful in white.”

① suits ② meets ③ fits ④ matches to 〈東京経大〉

620 That black tie doesn't () this blue shirt.

① worth ② meet ③ welcome ④ match 〈上智大〉

617 私は彼女に、宿題を手伝ってくれるように頼んだ。

618 その町に新しくやって来る人たちのために家を探す手伝いをするボランティアの要請があった。

619 「この白いドレスを着て私はどう見えるかしら？」

「とてもよく似合うよ。白い服を着るといっそうきれいに見えるよ」

620 あの黒いネクタイはこの青いシャツには合わない。

Point 151 : 「S+V+A+to+B」の形をとる動詞

614 **take A to B** 「AをBに連れて行く／持って行く」

基本

615 **bring A to B** 「AをBに連れて来る／持って来る」

標準

616 **owe A to B** 「Aに関してBのおかげをこうむる」

標準

整理 66 「S+V+A+to+B」の形をとる動詞

- **take A to B** 「AをBに連れて行く／持って行く」(→614)
- **bring A to B** 「AをBに持って来る／連れて来る」(→615)
- **owe A to B** 「Aに関してBのおかげをこうむる」(→616)
- **attribute A to B** 「AをBのせいにする／AをBの原因に帰する」
- **leave A to B** 「AをBに任せる」

* Aに形式目的語 it を用いた **leave it to B to do** 「…することをBに任せる」も頻出。

Point 152 : 動詞 help の用法

617 **help A with B** 「A(人)のBを手伝う」

標準

▶ **help** の目的語 A には、通例「人」が来る。よって① my homework は不可。618 **help do** 「…するのに役立つ／…するのを促進する」

発展

▶ 動詞の直後に原形不定詞をとるのは③ help だけ。

整理 67 動詞 help がとる注意すべきパターン

- **help A to do=help A do** 「Aが…するのを手伝う／Aが…するのに役立つ」(→548)
- **help A with B** 「A(人)のBを手伝う」(→617)
- **help to do=help do** 「…するのに役立つ／…するのを促進する」(→618)

Point 153 : 「似合う／合う」の意味を表す動詞

619 **suit A** 「(服装・色・髪形などが)Aに似合う」

標準

▶ **suit** には目的語に「人」をとって「Aに似合う」の意味になる用法がある。

▶ ③ fits が不可の理由は、問題 621 参照。

620 **match A** 「Aに調和する／合う」= **go with A**

標準

▶ **match A** では主語にも A にも「物」が来ることに注意。▶ **プラス** この他 **match** は「匹敵する」の意味でも用いられる。The two teams are well *matched*.

(その両チームは実力が拮抗している)

621 (a) As I have gained weight, my clothes are the wrong size.

□□□ (b) As I have gained weight, my clothes don't () me.

〈津田塾大〉

622 “Mary, does this bag () well with my dress?”

□□□ “Yes. They look very nice together.”

① see ② suit ③ go ④ meet

〈法政大〉

Point 154

623 Excuse me, I'd like to () these two books. How long can I keep them?

□□□

① hire ② lend ③ lent ④ borrow

〈神戸松蔭女子学院大〉

624 (a) You can borrow my bicycle if you are in a hurry.

□□□ (b) I don't mind () you my bicycle if you are in a hurry.

〈法政大〉

Point 155

625 (a) “I don't think there's any way to solve the problem,” said Susan.

□□□

(b) Susan () that there was any way to solve the problem.

〈津田塾大〉

626 “How can I get to your house?”

□□□ “Ah, it's easy. I'll () a map.”

① tell ② draw ③ teach ④ write

〈法政大〉

- 621 (a) (b) 私は体重が増えたので、服のサイズが合わない。
 622 「メアリー、このバッグは私のドレスによく合うかしら？」
 「合っているよ。二つをいっしょにすると見栄えがするよ」
 623 すみません、これらの2冊の本を借りたいのですが、どれくらいの間、借りることができますか。
 624 (a) (b) 急いでいるなら、私の自転車を貸してあげるよ。
 625 (a) 「私はこの問題を解決する方法はないと思います」とスーザンが言った。
 (b) スーザンは、この問題を解決する方法はないと思った。
 626 「あなたの家にはどうやって行けばいいの？」
 「ああ、簡単だよ。地図を描いてあげる」

- 621 **fit A** (人) 「(寸法・サイズに関して)Aに合う」 **発展**
 ▶ **fit** も「人」を目的語にとって「Aに合う」を表すが、「寸法・サイズ」に関して用いる。suit A (→ 619)との混同に注意。
- 622 **go with A** (物) 「Aに合う／調和する」= **match A** (→ 620) **標準**
 ▶ **go with A** は主語にもAにも「物」が来ることに注意。
 +プラス 同意表現の **match A** (→ 620) も頻出。

Point 154 ∴ 「貸す」「借りる」を表す動詞

【整理68】の違いを問う問題は頻出。

- 623 **borrow A** 「Aを無料で借りる」 **標準**
- 624 **lend A B** 「AにBを貸す」 **標準**
 ▶ **mind** は動名詞を目的語にする動詞 (→ 515) なので **lending** を入れる。

整理 68

「貸す」「借りる」を表す動詞

- **borrow A (from B)** 「(Bから)Aを無料で借りる」(→ 623)
- **lend A B=lend B to A** 「AにBを貸す」(→ 624)
- **rent A** 「A(家など)を有料で借りる[貸す]／一時的にA(車など)を借りる」
- **use A** 「A(電話・トイレなど)を一時的に借りる」

Point 155 ∴ **doubt** と **suspect**, **write** と **draw** の用法

- 625 **doubt that** 節 「…であることを疑う／…ではないと思う」 **発展**

整理 69

紛らわしい **doubt** と **suspect**

- **doubt that** 節 「…であることを疑う／…ではないと思う」(→ 625)
- **suspect that** 節 「…ではないかと疑う／…だと思う」

* **doubt that** 節は **don't think that** 節に近く、**suspect that** 節は **think that** 節に近いと考えるとわかりやすい。

- 626 **draw a map** 「地図を描く」 **標準**
 ▶ **draw a map** や **draw a picture** 「絵を描く」、**draw a line** 「線を引く」のように、**draw** は鉛筆やペンで線を引いたり、線で物を描くことを表す。
 ▶ ④ **write** は文字で何かを書き表すことを意味する。
 +プラス 意味が紛らわしいものとして、**beat A** 「A(人・チーム)を打ち負かす」と **win A[lose A]** 「A(競技・試合など)に勝つ[負ける]」、**take A** 「Aを連れて行く」と **fetch A** 「Aを連れて来る」も頻出。

Point 156

627 I can't () that noise. It's driving me crazy.

- ① keep ② put up ③ stand ④ stay away (東海大)

628 This bookstore is () three young sisters who really love books.

- ① lent for ② built in ③ owned to ④ run by (東京経大)

629 運よく、このホテルから日本アルプスが見渡せます。

- Fortunately, (commands / a / this / view / of / hotel) the Japan Alps. (城西大)

630 The eighteenth century () Germany's recovery from the wounds of the Thirty Years' War.

- ① was ② saw ③ did ④ happened (上智大)

Point 157

631 My sister says that she () a dreadful dream last night.

- ① had ② saw ③ looked ④ held (京都外大)

632 He had a dream of becoming a politician even though he didn't know how to () it.

- ① act ② become ③ realize ④ treat (摂南大)

633 あなたがいないととても寂しくなります。

- I'll () you badly. (奈良産大)

整理 70

注意すべき miss A の意味

- (1) **miss A** 「Aに乗り遅れる」 ⇔ **catch A** 「Aに間に合う」
I *missed* the last train. (私は終電に乗り遅れた)
- (2) **miss A** 「Aを免れる」
We narrowly *missed* the accident. (われわれはかろうじて事故を免れた)
- (3) **miss A** 「Aがないのに気づく」
Where did you *miss* your umbrella? (どこで傘がないのに気づいたの?)
- (4) **miss A** 「Aがいなくて寂しく思う / Aがなくて困る」(→633)

627 私はあの騒音には耐えられない。おかしくなりそうだ。

628 この書店は、心から大好きな若い3人の姉妹によって営まれている。

630 18世紀、ドイツは30年戦争の痛手から立ち直った。

Point 156 ❸ 思いがけない意味の他動詞

- 627 **stand A** 「Aをがまんする」 基本
 ▶ **stand** は自動詞として「立つ／立っている」を表すことが多いが、他動詞用法もあることに注意。
 +プラス **stand A** の同意表現である **bear A / endure A / tolerate A / put up with A** (→773) もここで押さえる。
- 628 **run A** 「A(店など)を経営する」 標準
 ▶ 他動詞 **run** には、「(機械など)を操作する」、「(液体)を流す」、「(選挙などに人)を立候補させる」の意味の他に、「(店など)を経営する／切り盛りする」の意味がある。
- 629 **command a view of A** 「Aを見渡す」 発展
 ▶ **command** には「(風景など)を見渡す」の意味がある。**command** の目的語である **view** は「風景／眺め」を表す。**command a view of A** はイディオムとして押さえておこう。
- 630 **see A** 「(時代が)Aを目撃する」 発展
 !!注意 この **see** は、時を表す名詞を主語にする無生物主語構文で用いられる。

Point 157 ❸ 注意すべきその他の他動詞

- 631 **have a dream** 「夢を見る」 標準
 ▶ 「**have a+動作を表す名詞**」の形で「(動作など)をする」を表す用法がある。**have a rest** 「休む」、**have a chat** 「おしゃべりをする」もその例。
- 632 **realize A** 「Aを実現する」 発展
 ▶ **realize** の目的語となる it は the dream of becoming a politician を表している。
 ▶ ② become は不可。「政治家になる」を表すためには、become it ではなくて become one (=a politician) でなくてはならない。
- 633 **miss A** 「Aがいなくて寂しく思う」 標準
 ▶ 本英文の badly は「とても／ひどく」の意味の副詞(→702)。
 +プラス **miss A** はさまざまな意味で出題されるので、左頁の【整理70】を正確に押さえる。

- 631 私の姉[妹]は、昨夜、恐ろしい夢を見たと言っている。
 632 それを実現する方法を知らなかったけれども、彼は政治家になる夢を持っていた。

- 634 One thousand dollars will () all your expenses for the trip.
 ① cost ② spend ③ give ④ cover <神田外大>
- 635 彼女の発言は私には奇妙に思われた。
 Her remarks (s) me as strange. <慶應義塾大>
- 636 彼女は、自分の半生をこの言語を学習することに費やした。
 She has (her / language / learning / life / spent half / this). <立教大>

Point 158

- 637 今、テレビを見てもかまわないでしょうか。
 Do (I / if / mind / right / TV / watch / you) now? <愛媛大>
- 638 そういうしつけの悪い子はいると思いますよ。
 I (be / expect / such / there / to / undisciplined) kids. <立命館大>
- 639 Since then I have () him very well.
 ① come to know ② become to know
 ③ become known ④ come known <駒澤大>
- 640 善人だからといって、彼が賢いということにはならない。
 Because he is good, (doesn't / follow / he is / it / that) wise. <垂細垂大>
- 641 どちらの側が勝とうが、私にはどうでもよい。
 It (doesn't / to me / wins / which / matter / side). <桜美林大>

整理

71

It doesn't matter to A wh- 節と同意表現

It doesn't matter to me whether he passes or not.
 (彼が受かるうが受かるまいが私にはどうでもいいことだ)
 = **It makes no difference to me** whether he passes or not.
 = **I don't care** whether he passes or not.

- 634 1,000ドルあれば、旅行のすべての費用をまかなえるでしょう。
 639 その時以来、私は彼をとってもよく知るようになった。

634 **cover A** 「A(費用など)をまかなう」 標準

!!注意 通例, 主語には「金額」などが来る。

▶① cost は不可。This book cost ten dollars. 「この本は10ドルした」のように cost は通例, 「物」を主語, 「金額」を目的語にとる。

635 **strike A as B** 「AにBの印象を与える」 発展

▶**strike** には「…に印象を与える」の意味を表す用法がある。**strike A as B** の形で出題されることが多い。

+プラス **strike A** は「(考えなどが)Aに思い浮かぶ」(=occur to A)の意味も表す。

636 **spend A (in) doing** 「…するのにA(時間)を使う」 標準

Point 158 : 定式化された表現で用いられる動詞

637 **Do you mind if I do ...?** 「…してもいいですか」 基本

▶相手に許可を求める慣用的な表現として押さえる。

+プラス **mind** はもともと「いやだと思う」の意味であるから, 日本語での「はい, いいですよ」のニュアンスは, “**No, not at all.**” “**Certainly not.**” “**Of course not.**” などのように, 否定の形で表すことは必ず押さえておこう。

638 **expect there to be A** 「Aがあると思う」 発展

▶**expect** は「S+V+O+to do」の形をとる動詞(→p.203【整理51】)。**expect there to be A** は, 存在を表す **there is** 構文の **there** が一種の代名詞的な役割を果たして **expect** の目的語となっている。決まった形として押さえる。

+プラス **believe, want** などこの形をとる。**believe there to be A** 「Aがあると思う」, **want there to be A** 「Aがあってほしい」で押さえておこう。

639 **come to do** 「…するようになる」 標準

!!注意 do には **know, believe, feel, see, like, realize** などの状態を表す動詞が来ることに注意。

▶② become to know は不可。become to do という形はない。

+プラス 同意表現の **get to do** もここで押さえる。

640 **It doesn't follow that** 節 「…ということにはならない」 標準

▶**follow** は **It follows that** 節の形で「(したがって)…ということになる」の意味を表す。本問はその否定形 **it doesn't follow that** 節を用いる。

641 **It doesn't matter to A wh-** 節 「…はAにとってどうでもよい」 標準

▶to A は省略されることもある。同意表現も頻出(→左頁の【整理71】)。

634 ④ 635 (s)truck 636 spent half her life learning this language

637 you mind if I watch TV right 638 expect there to be such undisciplined

639 ① 640 it doesn't follow that he is 641 doesn't matter to me which side wins